

医療機関における、レセプトデータのVMStudioを使ったらくらく分析

自治医科大学地域医療学センター
地域医療情報学部門 藍原雅一

高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部の「医療情報化に関するタスクフォース」報告書に医療分野の取組みとして、**i)**「どこでもMY病院」構想の実現、**ii)**シームレスな地域連携医療の実現、**iii)**レセプト情報等の活用による医療の効率化、**iv)**医療情報データベースの活用による医薬品等安全対策の推進が掲げられ、レセプト情報等の活用による医療の効率化の検討項目の一つとして、「匿名化されたレセプト情報等を一元的なデータベースとして集約し、広く医療の標準化・効率化及びサービスの向上に活用可能とする仕組みを構築する。」ことが昨年度の報告書に取りまとめられました。

本年度は、自治体・医療機関・保険者自らが保有するレセプト情報等の活用を促進する観点から、①自治体における、レセプト情報等を利活用した医療資源の見える化、②医療機関等におけるレセプト情報等を利活用したプロセスベンチマークの2項目について具体的手法を検討することとされています。

自治医科大学地域医療学センターでは、自治体等が保有するレセプト情報等を利活用し、患者の受療動向・医療受給状況・医療機関の機能分化等、総合的な医療資源を見える化した先進的な事例を調査するため、見える化した結果の活用法構成等に関する、自治体へのヒアリングを含め、標準的な分析プロセスをモデル化するとともに、都道府県が定量性のある医療計画を策定する際の基本資料を作成するために、「地域医療データバンク」の活用した研究を行っています。

地域医療データバンクは、全国 1,827 市町村及び全国の公的医療機関と自治医科大学が直接契約を結び、センターに保健・医療・介護に関する情報を一元的に集積することにより構築され解析を行います。そして地域の患者・要介護者像の特徴を明らかにし、各自治体や医療機関が今後の政策・経営を検討する際に必要となる基盤的情報をフィードバックすることを目指して研究を行っています。

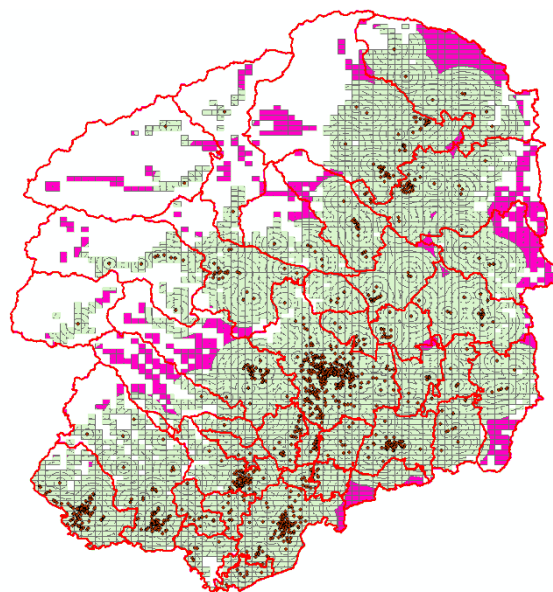
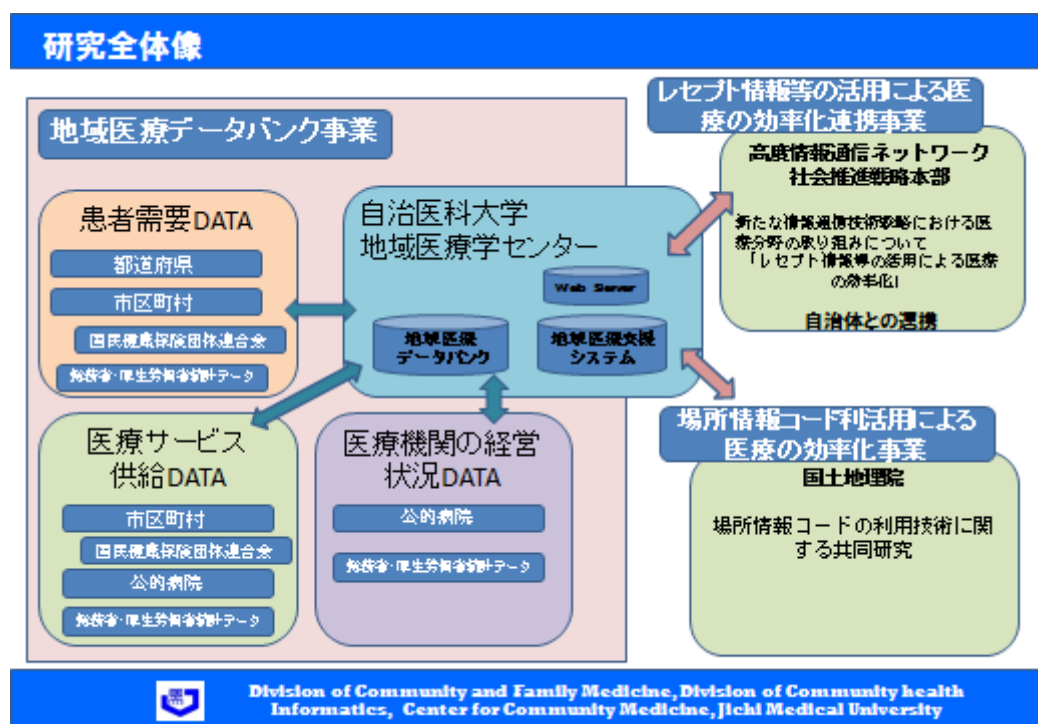


図1 地図情報による可視化

研究では、この蓄積された地域医療データバンク情報を活用し、医療の標準化・効率化及びサービスの向上に活用可能とする仕組みを実現するために、医療需要と医療資源のマッチングにより、医療需要の推定（詳細地域（町丁字）別・疾病分類別・年齢階層別）、患者の医療機関までの移動距離と患者・家族の負担の評価、医療機関ごとの診療機能分類、地域ごとの患者シェア、地域における医療資源の現状把握等の解析を行い、その結果を地図情報システム（GIS）により図1のように複合データを地図情報で可視化することにより、地域における医療の効率化に寄与することを研究目的としています。



医療機関における経営戦略策定に必要な情報は、医療機関における内部情報分析と外部環境分析があります。内部情報分析には内部環境分析、医療提供体制分析、B S Cなど様々な解析が医療機関内で行われています。また外部環境分析では医療マーケティング、診療コスト管理等の分析が行われていますが、自院以外の他の医療機関の情報が入手しにくいために、地域におけるベンチマーク(地域医療分析)を行うことが困難といわれています。医療機関の経営は、従来型の内部分析による経営方針決定から、地域医療連携等の医療機関の置かれる立場が変革していることと等の要因により外部環境分析に比重が移行されつつあります。

本セッションでは、「医療機関におけるレセプトデータの VMStudio を使ったらくらく分析」というテーマをあげさせていただいたように、医療機関において外部環境分析の一つの手法であるベンチマークを VMStudio を使って、簡単に解析ができるようプログラムを作成し

たものをご紹介します。

医療機関内でも電子カルテやオーダーリングシステム等から解析するためのデータを入手するのは、システムの修正や手間がかかり院内では、定型的な内部情報に基づいた経営管理指標が作成されているのが現状です。そこで、毎月作成されている請求レセプトに目をつけ、このデータを個人データから経営に使用できるようコードごとのファイルの集積を行い、経営データに活用できるようデータ作りを行います。

この作成されたデータと地域医療データバンクからの解析結果(地域の詳細動向)をミックスすることにより、地域における自院のベンチマークが簡単に作成することができます。

これからの医療の効率化を進めるために、医療機関内でデータ解析が簡単に早くできることが必須と考えます。そのためには、医療機関における人材育成が重要となり、簡単に経営のための資料が簡単に作成できることと、作成された資料を読むことができることが医療機関に今後、求められていくことと思います。

「VMStudio を使ったららくらく分析」については、平成23年11月19日(土)に開催します、岐阜大学公開講座「医療マネジメント講座」4. 医療機関が有する診療報酬明細書等の経営データ活用の実践(パソコンを使った実技)にも使用する予定です。

また、実際に医療機関でご使用になられたい場合は、一般社団法人地域医療情報研究機構に問い合わせただければ、ご提供できる予定となっています。